

そばにいるよ 子どもを見守り、育てる。居場所づくり

各地域で始まった子どもたちの居場所づくり、学校と連携した取り組みを紹介します。

● つつじが丘の取り組み

新しい
居場所
づくり

つつじが丘・春日丘自治協議会

会長 小引福夫さん



地域づくりの取り組みに 子どもの目線が必要

この地域だからできる
子どものイベント

夏祭りの準備を一緒にしていたPTA役員の若いお母さんから「高齢者の皆さんを対象にした事業は多いですが、子どもに対する事業は少ないですね」という話を聞きました。確かに高齢者の皆さんへの事業に比べ、地域づくりとして子どもたちとの関わりが少ないことに改めて気づきました。

この地域は、保育園、幼稚園、小学校、中学校までがあります。地域で育った子どもたちの成長を見守らなければと役員で話し合い、3年前、つつじが丘自治会



小中学生が協力し国際交流イベントを開催

に子ども育成部会を立ち上げました。そして、子ども中心のお祭り「子どもフェスタ」の開催を決めました。子どもたちの声を反映させるために、小・中学校にお願いしてアンケートを実施。毎年、子どもや親子で楽しめる催しや安価な模擬店、フリーマーケットなどを企画し、好評を得ています。

小・中学校と連携した 居場所づくりの取り組み

つつじが丘地域は、小中一貫教育のモデル校として、今まで以上に小・中学校が連携した、取り組みが進められています。今年、海外の留学生を招いて、日本や名張の歴史文化を小・中学校それぞれの生徒たちが英語で説明し、もてなす国際交流イベントが南中学校で開催されました。私たちもこれらの学校での取り組みに積極的に参加し、先生との話し合いの機会も増えています。地域住民として、子どもたちや学校にどのような支援ができるかを勉強し、検討しています。

今年の夏休みには、初めて子ども

もたちの居場所づくりと地域の交流を目的に、小・中学校の連携のもと、それぞれの学校図書館で15日間、子どもたちと地域の皆さんに開放する事業を実施しました。期間中合わせて約100人の利用がありました。

今後、放課後に市民センターを子どもたちの新しい居場所づくりとして、もっと活用できないかと考えています。しかし、子どもたちからは、市民センターへ「行ったことがない」「入りにくい」という意見があるので、まず学校帰りの子どもが行きやすい環境を作ること目標に、子どもたちとその方法を検討し、意見交換を始めています。



子どもたちの声を聞き、まちづくりに生かす「つつじっ子会議」を開催

地域が協力してコンサートを開催

南中吹奏楽チャリティコンサート
日時 12月17日(日)午前10時～正午
場所 南中学校体育館
出演 南中学校吹奏楽部、双子姉妹コーラス「エシレ」、音楽奏者「シリウス」 ※申込不要
集まった収益金は、吹奏楽部の楽器購入費に充てます。

☎つつじが丘市民センター
68・12336

● 子ども食堂の取り組み

一人で食べるのは
大人だっておいしくない

なばりこども食堂 代表 水口 薫さん



全国各地で子どもたちに食事を提供する「子ども食堂」があることをニュースで知りました。

子どもを取り巻く「食」の問題が気になって、「私も名張で何かしたい」とすぐに思いました。まず賛同してくれるボランティアを募集して「やなせ宿」で「なばりこども食堂」を約一年半前にスタートさせました。

開催は月に1度。料理が得意なスタッフが調理場に入り、その日に地元の生産者などから無償で提供いただいた食材からサラダ、煮



提供食材で献立を考え、バイキング形式で自由に

物、炒めもの、汁物など約15種類を作ります。バイキング形式で取り分けてもらい、好きな料理を好きなだけ食べていただきます。折角、提供いただいた食材を無駄にできません。利用者には食べ残しがないように呼び掛けています。

全国で実践されている子ども食堂には、貧困という問題もテーマにあると思いますが、私がいま感じているのは「居場所」です。

安価で温かい食事を提供する食堂なら、小学生や高齢者など誰もが来ることが出来ます。子どもが一人で来ても、大人が一人で来ても構いません。大人だって一人で食事をするのは、おいしくありません。食卓を囲んで、おいしく、楽しく、ゆっくり過ごせる食堂が子どもたちや地域の皆さんの居場所になってくれたらと思います。

各地域で、子ども以外でも参加できる食堂の取り組みが広がることを期待しています。

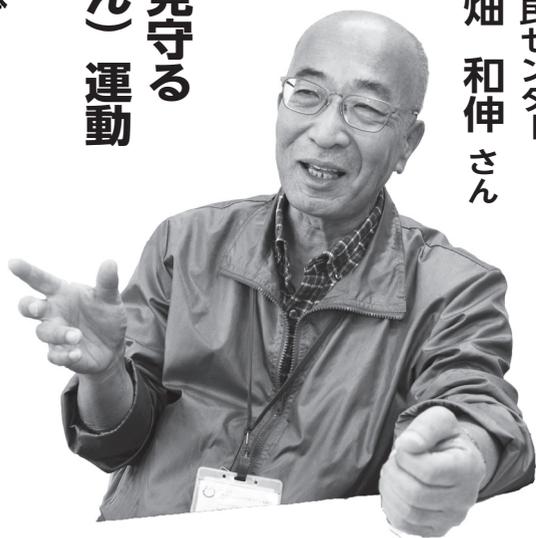
なばりこども食堂 開催日時 毎月第3日曜日 午前11時～午後2時 場所 旧細川邸やなせ宿(新町)

※子ども無料 大人300円(運営協力費として) 予約不要。アレルギーなどが気になる人は受付時に申出 ☎旧細川邸やなせ宿 ☎62-7760

子ども 地域と学校

百合が丘市民センター

館長 畑 和伸さん



● 青蓮寺・百合が丘の取り組み

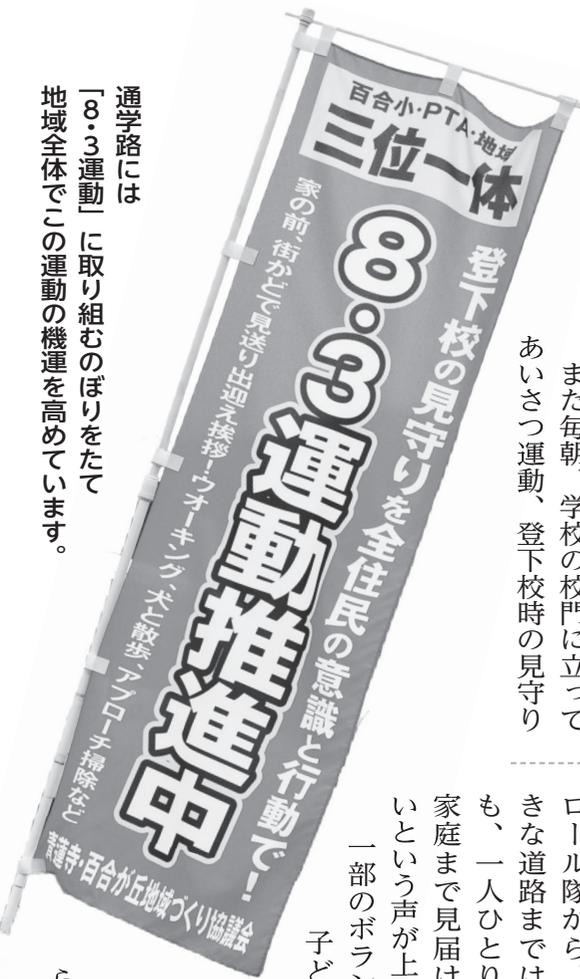
登下校の時間に見守る 8・3 (はちさん) 運動

学校・家庭・地域が一体
となった取り組み

百合が丘地域では、学校と家庭、地域が連携・協働して子どもたちの成長を支えていく活動を積極的に実施しています。

小学校から支援の要望がある国語や算数の授業中に子どもたちへの声掛け支援、家庭科(ミシン、調理実習)、農作物の育成など、学校の授業へ地域の支援者が出向いて、先生の手伝いと子どもたちをサポートしています。

また毎朝、学校の校門に立ちあいつつ運動、登下校時の見守り



通学路には「8・3運動」に取り組むのびりをたて地域全体でこの運動の機運を高めています。

活動も実施しています。

地域全体で見守る 「8・3運動」スタート

今年、千葉県で見守り活動中の保護者により子どもが犠牲になる事件が発生しました。凶悪かつ卑劣な事件を受け、この地域でも児童の安全確保の必要性を学校側と協議し、特に低学年の下校時の防犯パトロールを強化することになりました。

しかし、しばらくするとパトロール隊から、集団下校する大きな道路までは見守りができて、一人ひとりの児童を確実に家庭まで見届けることはできないという声が上がりました。

一部のボランティアだけが、子どもたちの見守りをするとい

うのは限界があります。やはり地域全体で見守りをしてもらうことを呼び掛

けよう。そんな思いから「8・3運動」の取り組みが始まりました。

「8・3運動」は、普段の生活の中で、小学生の登下校時間の午前8時ごろと午後3時ごろに子どもたちを地域の皆で見守るといふ活動です。ウォーキング、犬の散歩、玄関先の掃除、庭の手入れなど、家の前に出て、外の用事を行いながら、少しでも子どもたちを交わすことで、地域全体で見守りができると思います。

子どもたちが将来、ここで暮らしたいと思えるか

私たちのまちが、地域ビジョンの目標の一つに掲げているのは、「地域の子どもたちが巣立ち、成長した後も、楽しかったこの地域を思い出し、ここで暮らしたい、ここで子育てをしたいと思ってもらえるまちにすること」です。これからも、子どもたちの成長を支え、魅力あるまちづくりを目指していきます。



地域全体の活動として、子どもたちへ声掛け

子ども×地域×学校 こんな取り組みもやっています

通学路を美しく、子どもたちを見守り 通学路花いっぱい運動

桔梗が丘自治連合協議会
(桔梗が丘市民センター内) ☎ 65-1206



通学路に花を植え、まちを美しくする。そして花の世話や朝夕水やりをしながら、子どもたちを見守り、声掛けをしてもらう。地域全体で子どもを支援し、環境美化にもつながるといふ一石二鳥の取り組みが「通学路花いっぱい運動」です。

地域の3つの小学校では、ボランティアや保護者の皆さんにマリーゴールド、パンジーなどの種をまいて苗を育てていただき、その苗を賛同してくれる皆さんに配布します。「子どもらをみんなで守る花いっぱい」の合言葉とともに、地域の皆さんは、子どもたちの成長を見守ります。



ボランティアの皆さんが種から苗を育てます

それぞれの立場で連携・協働 伊賀つばさ学園との連携

美旗まちづくり協議会
(美旗市民センター内) ☎ 65-3007



特別支援学校伊賀つばさ学園高等部では、子どもたちが社会に出て活躍できるように、さまざまな作業学習を実施しています。サービス班の清掃活動もその一つ。サービス班の生徒たちは、在学中に清掃技能を身に付けるため専門家の指導を受けて、清掃技能検定を受検しています。

美旗市民センターは、つばさ学園と隣接。学校から生徒たちの活動場所を提供してほしいと要請があり、市民センターの一部清掃を依頼しました。生徒の皆さんが一生懸命にきれいにしてくれることだけでなく、地域と学校がうまく連携・交流できる取り組みです。



センターの窓拭きをする高等部の生徒